

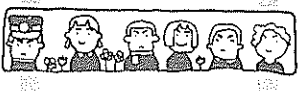


広報なんこくの配付について

【問】
私は、最近南国市へ転入してきた者ですが、広報なんこくや市役所からのお知らせ文書などをもらうにはどんな手続きをすればよいのでしょうか。

一主婦

質問箱



【答】
広報なんこくは、一日号と十五日号の毎月二回（二月は十日号一回のみ）発行しており、これら市役所からの文書は、各地区の「連絡員さん」を通じて市内全世帯に配付しています。

この連絡員制度は、広報が発行されたら、お知らせ文書といっしょに連絡員へ郵送（職員などの幸便も利用）し、連絡員の手によって各世帯へ配付するというシステムです。配付枚数については、連絡員から市役所への「増減の連絡」によってその枚数を決めています。転入してきたときは、そのことを地区の連絡員さんに申し出てく

ださい。連絡員の氏名がわからないときは近所の人や市役所でおたずねください。また、近くに転入されてきた人があれば、近所の人からこれらのことを教えてあげてください。

市内三百二十三人の連絡員のみならず、広報などが全世帯へ配付されるよう、今後ともご協力をお願いいたします。連絡員の変更や枚数の増減がありましたら、電話などで市役所管理課文書庶務係 ☎ 2111（内線422）(0)2041までご連絡ください。

なお、広報の発送は発行日の前日に市役所を発送することになっていますが、土、日曜日などのため遅くなる場合がありますのでご了承ください。

浴衣姿の親子づれ、夜空を彩る打ち上げ花火——七月に入り、夏の夜の恒例となった「盆おどり」が市内各地で開かれています。

にぎわった「日章盆踊り」

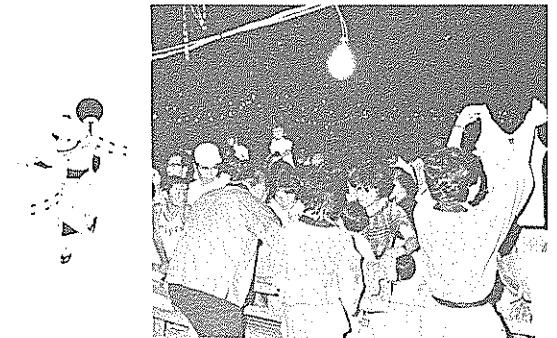
竹幸雄団長が計画、各地区の公民館などのバックアップにより開かれたもので、今年で九回目。午後六時半の花火を含め開始。浴衣姿の子どもたちやはつぴ姿の若者で会場はいっぱい。今年も従来の盆おどりに加えて、フォークダンスも登場し、「踊りの輪」がグラインドいっぱいに広がりました。また、夜空を彩る打ち上げ花

火に盛んな歓声があがるなど、夏の夜の楽しいひとときを過ごしました。

主催した青年団は、「なかなか盛況でした。十周年を迎える来年も新しい企画で楽しい盆おどりにしたい」と話していました。

また、この日は地元のお店から提供された商品などが「セリ売り」され、売上げ金六万四千八百三十円が土佐希望の家へ寄付されました。

盆おどり大会



十電の電停、篠原の南西に春喜さまと呼ぶ小社がある。昔はなかなか広い神域をもち、数十本の大樹が茂って昼なお暗く、夜にはふくろうの鳴声も聞かれる淋しいところであったという。いつのころだったのか、この土地に波谷権右衛門という郷土が住んでいた。近郷の農家からお春と呼ぶ女中をやとっていたが、性質が温和で気だてがやさしいうえ、なかなかの美人であったので波谷家の一同からも家族のように可愛いがられた。お春もまた、それに答えるかのようになまめしく働いていた。

若者があつたが、ういういしいお春の美貌に魅せられてしまった。藤四郎は主従の関係をこえて、夜となく昼となくお春に近づいて心のうちを打ち明けるのであったが、一向になびく風情がなかった。



お春には、五つ違いの従兄がおり、これがまた至極まじめなよい若者であった。二人は両親から許されて、近い将来晴れて夫婦になる約束をしていたからである。

可愛さままつて憎さ百倍のたと

皿屋敷悲話

えの通り、嫉妬と怨恨の極に達した藤四郎は恨みをばらす機会をうかがっていた。

波谷家には、代々伝わる家宝の立派な皿があり、その取り扱いははくれくれも注意するようにいわ

れていた。宴会が終つてお春が皿を洗っていたが、ちよつと席をはずしたその隙にこっそりしのびこんだ藤四郎は、その一枚を盗みだしてしまつた。

「ご家庭で話し合つて答えてください。答えは今月号の広報に出ています。」

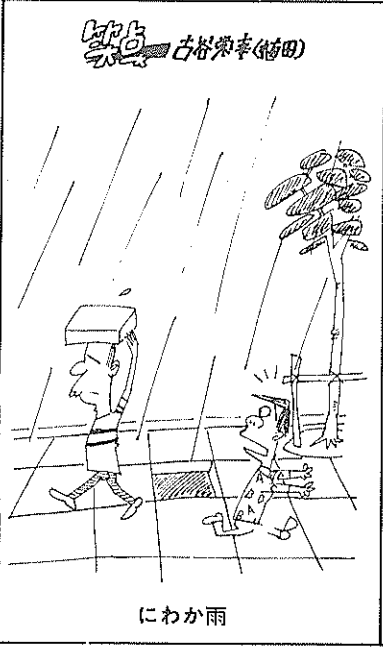
■もんだい・大塚小学校と香南中学校の改築工事の起工式が○月十日、十二日の両日現地で行われた。

■しめきり・八月十五日（火）

■おくり先・〒783南国市大塚甲2301 南国市役所内 広報委員会親子クイズ係

一方、藤四郎は高熱にうなされて、狂気のように悶え苦しむようになった。こんなことが毎晩のように続いたあげく、とうとう血を吐いて死んだのである。そして、不思議なことにその翌朝には、藤四郎の部屋から縁側に向つて、お春の血染めの足跡が続いていたという。

うち続くいやな事変に、さすがの権右衛門も恐怖におののき、屋敷の西方に社殿を建立してお春の霊をなぐさめた。この社を春喜さまと呼んで今に祭りつづけられている。



南国俳壇

- 浜田 初 (波俳句会)
- 浜田東風 ()
- 浜田波男 ()
- 吉川 節 (梵鐘会)
- 林 光江 ()
- 吉川 妙 ()
- 溝淵由紀男 (石村句会)
- 吉田常光 ()
- 西川洋水 ()

南国歌壇

- 立田 北村幸江
- 青さがふかく目にしみるなり
- 大塚 中田憲秀
- メロン食べ娘に返るクラス会
- 三福 井沢正子

南国柳壇

- うそと知り口の車にまたも乗る
- 大塚 野久保武
- 盟友の来る日禁酒の破れる日
- 常通寺島 橋田井波
- 日本は瑞穂の國です穂肥穡く
- 古市 長野ふくみ



「ご家庭で話し合つて答えてください。答えは今月号の広報に出ています。」

■もんだい・大塚小学校と香南中学校の改築工事の起工式が○月十日、十二日の両日現地で行われた。

■しめきり・八月十五日（火）

■おくり先・〒783南国市大塚甲2301 南国市役所内 広報委員会親子クイズ係

一方、藤四郎は高熱にうなされて、狂気のように悶え苦しむようになった。こんなことが毎晩のように続いたあげく、とうとう血を吐いて死んだのである。そして、不思議なことにその翌朝には、藤四郎の部屋から縁側に向つて、お春の血染めの足跡が続いていたという。

うち続くいやな事変に、さすがの権右衛門も恐怖におののき、屋敷の西方に社殿を建立してお春の霊をなぐさめた。この社を春喜さまと呼んで今に祭りつづけられている。